

**大学** University**受ける側から与える側へ**

尾作 菜々子 大学教育人間科学部教育学科4年

私は、中高大の10年間、キリスト教学校に通ったことになりました。キリスト教は愛に溢れています。私は大学生活の中で沢山の愛に触れてきました。尊敬できる学科の友人・ボランティア先で出会った人々・趣味を共有したサークルの友人。このような人々との出会いを通して多様な価値観に触れながら、人間関係の中に成り立つ愛の素晴らしさを感じました。しかし、3・4年の時期はコロナ禍で何気ない人間関係を持つことが困難になりました。人が直接関わるからこそ生まれる温かい感情が私は好きなのだと思えて実感させられました。

流動的な青学生活の中で、私は愛を具現化できる小学校教員を志すようになりました。「We all gifted」これは私の好きなアーティストの歌の歌詞です。人にはそれぞれ賜物が与えられています。しかし、その賜物が陰に隠れ上手く活かせない人もいます。これからは、子どもたち各々の賜物を見出し、最適なかたちで活かし、それを愛することのできる教師になりたいと切に願います。

**やってはいけない苦労がある**

塩谷 直也 大学宗教部長

「苦労は買ってでもしろ」との言葉があります。確かに若い時の苦労は、後々役に立つものです。私自身も20代、30代の苦労が今の実りになっていることを痛感します。卒業生の皆さん、苦労を避けず正面から立ち向かってくださいね。

ただ世の中には「買ってはいけない苦労」があります。それは「私さえ我慢すればうまくいく」と自分に言い聞かせる苦労です。この手の苦労は日々自分を痛めつけ、辱めます。苦労するほど自分のことが嫌いになり、周囲への怒りと憎しみを育て、やがてあなたの生きる力まで奪われます。

いいですか、あなた一人が我慢しても現実には変わりません。周囲はあなたが我慢していることなど気にも留めません。どうせ背負う苦労なら、「私はもう我慢しません。傷ついていい人など一人もいません。私は自分を守ります」と発言し行動する苦難、「十字架」を選びなさい。その時、神様に造られ、愛されている本来のあなたが輝き始めます。

主が共におられます。お元気で。

